

アジア食料農業政策研究会

主査 坪 田 邦 夫

近年、食料農業政策の変化が大きいのは経済の発展が続くアジア新興国地域である。主食用穀物需要の伸びが鈍化する一方、食料生産・貿易構造にも変化がみられる。技術進歩による農業生産性の上昇が続き、農業政策も食料増産や消費者保護から、農業調整や農業者保護へと次第にシフトしつつある。この研究会では、こうしたアジア主要国の近年の農業政策の変化の実態と背景を、国内外の食料需給や政治経済情勢の変化などと結び付けて検討する。委員会メンバーはインド、中国、ASEAN などのアジア主要国農業専門家とする。期間は当面 2 年間とし、その間に一応の取りまとめを行う予定である。